



栄久庵会長「Lucky Strike Designer Award」受賞 Kenji Ekuan became the first Japanese winner of the Lucky Strike Designer Award

P.10,11 People & Activity



Special Theme

西澤健 GKデザイン機構
代表取締役社長、逝去
Condolence for the late
Takeshi Nishizawa



World Report

GK Design International
アトランタオフィス
GK Design International
Office in Atlanta

菅原 義治
Yoshiharu Sugawara



Special Theme

天命と道具
Decree for Dougu (Tools)

栄久庵 憲司
Kenji Ekuan



World Report

新社名・新オフィス、
そして新たな地平へ
New Company Name, New
Office and New Horizons

柴田 巖朗
Itsuro Shibata



Project Report

地域とユニバーサル
デザイン
Universal Design for Regional
Confidence

石川 新一
Shinichi Ishikawa



GK Gallery Report

「GKのかたち論」(第1回)
Theory of Forms

「道具学研究」事始め(第2回)
Commencement of Dougu
Studies



Project Report

メディアとしての
「触れる地球」
"Tangible Earth" as an
Information Terminal

真貝 孝洋
Takahiro Shinkai



People & Activity

栄久庵会長「フィンランド
獅子勲章」受賞
Kenji Ekuan was honored
with the Order of the Lion of
Finland

西澤健 GK デザイン機構代表取締役社長、逝去

心より謹んで、ご冥福をお祈りいたします
GK グループのこれからの努力と展開を、温かく見守っていただけますよう

西澤健 GKデザイン機構代表取締役社長・GK 設計取締役相談役が、平成15年9月10日(木)午前11時25分、療養の甲斐なく、心不全のため、逝去(享年67歳)。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。なお、葬儀は、葬儀委員長・GK デザイン機構代表取締役会長栄久庵憲司、喪主・妻喜代美により、護国寺・桂昌殿にて執り行われた。(通夜・9月13日(土)午後6時～7時、告別式・9月14日(日)午前11時半～午後1時)

以下に栄久庵憲司 GKデザイングループ代表による弔辞を載録する。

『西澤君、四十数年こう呼んでいたのだから他に呼びようもなくお許しください。

あまりにも早い去り方に我々は茫然としています。それにしても天はかくも過酷な病との闘いで、貴方に熾烈な苦行の道を歩ませたんですね。人の世界でも最も厳しい死との闘い、よくぞ耐え抜きました。最後の自らの形成こそ、人生の最大のデザインです。想像を絶する厳しくも苦しい関門があったでしょうね。どんなに苦しくても貴方はデザイナーです。「真善美」を求め続けたでしょう。眠りの顔がとても美しかった。本当に美しかった。

貴方に授けられた戒名「遵景院普光健徳清居士」まさに貴方そのものです。67歳の生涯の行の積み重ねで得た、堂々たるデザイナー西澤健の新しい生まれ変わりです。立派になられた貴



方に私が言えることは、只々「賛西澤健」です。

これから申し上げることは私の気持ちのまとめと思ってお許し下さい。

貴方は芸大を出て直ぐに入所した時、賑やかな同窓数名と一緒にいた。「才気煥発型」の中で貴方は無骨でとても気になる存在でした。どこか訥々としたところが印象的でした。でも行動力は抜群でしたよ。今、考えてみるに孔子の言った「君子の言は訥にして行い敏なることを欲す」。べらべらしゃべらないのが「仁者」らしいという意味です。

同級生でGKから世を去った吉岡佑、伊東三和子が待っていますよ。天才型の吉岡佑、都会下町型の才媛伊東三和子、それに西澤健が加わって極楽はさぞや賑やかなことでしょう。極

Condolence for the late Takeshi Nishizawa

Takeshi Nishizawa, president of GK Design Group Inc. and advisor to GK Sekkei Inc. passed away on September 10, 2003 at the age of 67 because of heart failure. At the funeral held on September 14 in Tokyo, Kenji Ekuan gave a memorial message as follows:

“ We are struck dumb with surprise over your too early departure from us. Heaven made you undergo such a harsh struggle against a difficult disease. However, you have withstood the hardest suffering for human. I understand that you have sought truth, good, and beauty even while struggling against incredible sufferings. Your sleeping face was beautiful indeed.

Upon graduation from the art university, you entered

our design firm together with some of your schoolmates. In the group of brilliant and resourceful colleagues, you were quiet and rustic, and for that reason, you drew my attention. You spoke somehow ineloquently, but you acted boldly. I respected and admired your personality, and relied on you. The entire staff of GK depended on you in one way or another.

You were not tactful. However, I know that your tactlessness brought about incomparable strength in you. It was with this character, you explored the field of urban landscape design as a new design genre. It is not easy to develop a new genre. It requires strenuous efforts and a sincere and persuasive personality. You made great jobs in projects such as the street furniture projects in the

楽楽団とでもいいでしょうか、さしずめ西澤健、貴方は大太鼓というところでしょうか。確信のある大太鼓の響きは、貴方の訥々とした性格の生涯を明快なものに育てました。大地をしっかりと叩く大太鼓の響きに、だれもが頼りに生きる。私も貴方のその「徳」にすっかり敬服し、懐き、そして頼ってきたんです。GK全員が頼っていたんです。

貴方は決して器用ではなかった。だがその何につけての不器用さが誰にもない力を生んだのですね。「この道一筋」「牛の一步一步」「倒れてやまん」。都市景観分野を新しく切り開いたのもまさにその性格からです。じっくり勤め上げる新分野はそう簡単には築き上げることは出来ません。無骨で訥々とした誠意のある性質と、その人格が生む独特の説得力が必要なんです。千里バスストップ計画、大阪万博、筑波博と続くストリートファニチュアのプロジェクト、それによる都市景観の構築、更にはパブリックデザインセンターの創設へと続く。よくやりました。

そしてGK設計をはじめとするGKコロナ計画、いわゆる分社計画も貴方の極めて有効なリーダーシップが発揮され、厳しいバブル以降の日本の流れの中でGKは遅く生きてきました。貴方はよく言っていましたね。「これからはGKの頑張りが、世界のGKになるにはもう一息、知恵と力がある」。

西澤君！ 貴方は思い切り精神と体を動かしたかったんでしょうね。それを思うとたまらなく残念です。痛恨の極みです。でも貴方は言っていました。「思いきり進んで、バツリ倒れる。これこそ男子の本懐だ」。誰もが認めています。今や貴方の一期一会の心が沢山の人の心を呼んでいます。貴方の滲むような人間愛。GKに対する

series of Senri Bus Stop Plan, Expo '70 Osaka, Tsukuba Science Expo '75, and the building of cityscapes, the creation of the Public Design Center.

You also showed your leadership in the GK Corona Plan to divide GK into different branches including GK Sekkei Inc., and led the Group to survive the difficult economic situation after the collapse of the bubble economy. You often told us, "Now is the time for us at GK to mobilize our wisdom and resources to make a step forward to make GK a world-class design firm."

I know you wanted to move your body and your spirit to your heart's content. Just thinking of it makes me deeply sorry. However, you often said "To advance as far as I can, and then to fall with a clash. That's a real

思いをGK全員が感じています。

西澤君、貴方は「遵景院普光健徳清居士」という偉大な菩薩になられたのです。その「功德」をGKに授けてください。指導してください。私達GKグループは貴方に膝まづいて教えを乞います。貴方はまさに西澤菩薩になられたのです。普光の二文字、天地を射す光を仰ぎ見た時、必ずや貴方を菩薩だと思い起こすでしょう。願わくば貴方の高遠な功德をGKグループに授けられんことを切に祈り願ひ上げます。』



西澤 健(にしざわ・たけし)略歴

昭和11(1936)年3月11日生まれ 長野県出身
昭和34(1959)年 東京芸術大学図案科卒業、GKインダストリアルデザイン研究所入所
平成3(1991)年 GK設計取締役社長
平成8(1996)年 GKデザイン機構代表取締役社長
平成15(2003)年9月10日逝去(享年67歳)

環境デザインの草分け的存在として知られ、財団法人日本産業デザイン振興会元理事、財団法人都市づくりパブリックデザインセンター理事、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会元副理事長などを歴任し、EXPO'70ストリートファニチュア、幕張新都心都市環境デザイン、東京都晴海通り(銀座シンボルロード)整備、西伊豆町環境整備、新宿副都心地区サイン環境、松本城周辺道路景観整備、舞鶴市三条通り環境整備、ベルリン市ストリートファニチュア等々の計画・デザインに従事し、多数の受賞をした。

desire as a man." Your warm personality is drawing such a crowd of condolers. All the people in GK are feeling your love toward people, and your sentiments toward GK. You have become a bodhisattva. Please be charitable to GK and lead us onto the right path.

Nishizawa, Takeshi's Profile

Graduated from Design Department, Tokyo National University of Arts and Music, and joined GK in 1959. Became president of GK Design Group Inc. in 1996.

Known as a pioneer of environmental design, he served as a director of the Japan Industrial Design Promotion Organization and Urban Design Center. Engaged in Expo '70 Street Furniture, Makuhari New City Environmental Design and others.

天命と道具

「五十にして天命を知る」GKの50年は、「天の道」「地の道」「人の道」を求め続けた日々であったさらなる50年をめざした創造的GKライフの構築を願いたい

栄久庵 憲司

GK五十周年記念の披露宴の時、孔子の言葉を引用してGKも「五十にして天命を知る」と挨拶した。「吾、十有五にして学に志し、三十にして立つ。四十にして惑わず、五十にして天命を知る。六十にして耳順う。七十にして心の欲する所に従えども、矩を踰えず」という孔子の言葉は、GKのような有機的創造体には、充分通用する。「五十にして天命を知る」ということは五十歳になったらこの道以外に進む道はない、まさに天の指し示すところである、爽やかな気持ちで我が道を歩もうということだ。

GKは、誕生したとき既に、「吾デザイナーとして一人歩まん」という心構えがあった。二十一年でデザイナーとしての存在を確認し、三十年、四十年で更に確認し、満五十年になってこの道以外なにかあろうぞと、自らの歩む道をおのずと確認したのである。五十年の様々な体験がデザインという大きな流れをつくり、その流れに安心して乗っている。そこには気の張らない天命感がある。デザインがますます人のために大事だということを心から知り、それを知るための五十年であった。大言壮語ではなく、それ以外にGKの心情と決意を伝える言葉がなく、また言い切ることによって社会にGKのこれからの五十年の態度を宣言したのである。

では「天命」とはどういうことか。孔子は、弟子の子貢に「人生の信条は何か」と訊ねられたと

き、次のように答えた。「それ恕か。己の欲せざる所は人に施すこと勿かれ(思いやりだ。自分がしてほしくないことを人にしてはいけない)」。これが天命だ。デザインの道に通ずる素晴らしい言葉だ。人の求めるものを知ることになり、まさにデザインの実践編といえる。

デザインの道といったが、GKはつとに「道の具わりたるモノ＝道具」という言葉を用いてきた。ただつくればいいというものではない。「道」を必要としているところが存在理由になっている。「道」を更に掘り下げてみよう。この道には「天の道」「地の道」「人の道」の三道がある。この三道は、「人の道」を中心に大きく同心円を画いている。宇宙の中に地球は存在し、地球の中に人間は存在するという天地人の関係だ。デザインは人を満足させると同時に、地という自然とも調和をはかり、天という宇宙像の中で存在が正しくなくてはならない。自己の存在が他の存在を崩してはいけないのだ。これら全てを充足させてはじめて道具といえる。道具は、人道、地道、天道の調和を目標としている。

道具をデザインすることは天命をかたち化することになる。従って道具をデザインするとき天の道にも足らざりしか、地の道にも足らざりしか、人の道にも足らざりしかと考え、道具の三道の融合に志を向ける姿に独特の緊張感がある。このことは人間を更に高い存在に位置せし

Decree for Dougu (Tools)

Kenji Ekuan

At the ceremony commemorating the 50th year anniversary of the GK Group, I quoted a phrase by Confucius, "a person should realize one's decree at the age of 50." It means that one should realize that there is no other way for him to take than what he has been doing and that one should live up to that call.

GK began 50 years ago with members having the youthful desire to become competent designers. We reconfirmed this desire in the 20th, 30th and 40th years, and now in the 50th year, we are confirming afresh that there is no other way for us to go. Through our experiences in the past 50 years, we have developed a large stream

of design in Japanese society, and we are following that stream with a sense of security. It was during that period that we realized our mission as designers, that is to contribute to the betterment of people's life.

GK has used the term dougu not to simply mean objects or tools but to mean things that are supported by dou (way, path, morality, pursuit of truth and philosophical thinking). The act of designing dougu must first satisfy humans, must keep in harmony with the earth, and the existence of the designed object must be justified in the universe. Designing dougu, therefore, means to give shape to our decree.

We understand the term "dou" as the way one should be or do. We also consider that there are the ways that

める極めて基本的な姿勢だと思う。

「道」は日本文化の特色であり、極めて絶妙なトータリティがある。茶道、華道をはじめ武道に至るまで、かたちから導入して必ず人の生き甲斐に結びつけている。茶道の利休は一塊の茶碗に道を求め、壮大な芸術の統合を試みた。宮本武蔵は、一振りの剣に道を求め、生き甲斐を勝ち得た。日本文化は道を目指しているところが凄いのだ。日本人にとって長い歴史により洗練された文化が背景にあることが、創造的行為に品格と威厳をもたらしている。私は美しい日本の文化に接するとたまらなく嬉しく、楽しく、倦むことがない。日本人に生まれてよかったと思う。日本人は戦後顔を失った。今後は世界に向かって品位と威厳のある顔をつくらねばならない。西欧近代主義の影響を受け、経済成長による利点もあったが、様々な負の代償も払われた。環境的損失だけでなく、心のすさみがそうだ。再び日本文化の原点に立ち戻ることが急務である。文化的自我の確立といていい。今後必ず求められる新たな地球文化を目指すことだ。「道」を有する日本文化には新地球文化を築く本質を充分供えている。

GKがかねがね考察してきた、日本文化の基層である「自然観」「技術観」「造形観」「表徴観」「儀式観」は大いに可とするものがある。加えて西欧的「科学観」「芸術観」にあらたな批判を加え、日本独自の観念の創出は充分可能なところである。特に西欧の個人主義的「芸術観」とは全く意を異にした「芸術観」が、日本文化のある側面を形成しているほどだ。科学のデザイン化がそこかしこにみられるのも興味深い。他のあまたある観念から影響を受けた科学観があることは間違いない。

“ Heaven” should be, that the“ Earth” should be, and “ Humans” should be and do. The“ dou” of humans is in the center surrounded by the“ dou” of the Earth and Heaven. What GK intends is to create“ dougu,” meaning tools and objects that satisfy the“ dou” of Humans, Earth and Heaven.

“ Dou” is an element characteristic to Japanese arts. To learn arts, whether it be tea ceremony, flower arrangement or even martial arts, people begin with the imitating the forms, and proceed to finding the meaning in their life. Japanese culture has its strength in this element of“ dou” that gives elegance and dignity to art creations. I am confident that Japanese culture with“ dou” has the potential to develop a new world culture. GK

GK設立五十周年記念でGKは五十年の実績と評価があることを世に知らしめた。組織的創造力の評価も得た。また期待もされている。プロジェクトの発生は多岐にわたり、クライアントによっては依頼内容が著しく進化し、デザインの高い認識を示してくれている。デザインの認識は変化こそあれ、五十年間での需給の関係はGKの存在を確かなものにしてくれた。勿論GKは受け身だけではない。要望を積極的に改良して提案することでも評価を受けている。既存のクライアントも、未知のクライアントも、社会がGKのデザインの可能性に対して、更に大きく期待をかけていることを知って欲しい。

だが五十年の存続はデメリットがあるのも事実だ。今やスピリットの欠如があるのではないかと敢えていいたい。平穩に安住して、折角の鋭利な感覚の刃を鈍らしていることだ。これだけはお互いに切磋琢磨せねばならない。感覚のピカピカした状態がいかに素晴らしいかを知るべきである。

これからの五十年の創造的GKライフの構築をしたい。近くはバウハウス、ライトのタリアセン工房、遠くはフィレンツェのルネッサンス時代の芸術活動、日本では五百年前光悦村が独特のライフスタイルを築いた。デザインワークとライフスタイルの一致こそがGK文化を生む原動力となり、充実の永遠を迎えることができる。私はかく述べた願望と祈りを、他と共有すべく道具寺、道具村をGKの仲間と進めている。いずれ説明の機会があろうが、それはGK発足時代からの夢でもあったことを伝えたい。GKデザイン原始共産社会、デザイン運動協同体、いわゆるGK村建設計画である。

(えくあん けんじ：GKデザイングループ代表)

has examined the concepts of nature, technology, forms, symbols and rituals that constitute the base of Japanese culture. We can see western concepts of science and art with a critical eye and create a specific Japanese concept of art. It is interesting to see examples of designing science. People’s perceptions of science are influenced by various concepts. GK’s 50th anniversary gave us an opportunity to publicize the past performances of GK. I would like to envisage the creative GK life for the coming 50 years. I would like to create a GK culture in which our lifestyle and design work are integrated, something like Bauhaus in Germany, or F. L. Wright’s Taliesin Atelier. Together with my colleagues, I am preparing to build a GK Village, a design commune.

地域とユニバーサルデザイン

地域の人たちに馴染みやすい多様な価値のユニバーサルデザインを求めて
京都から発信する5つの試み

石川 新一

研究会の取り組み

今から3年程前に、京都府から地域でのユニバーサルデザイン（以下UD）について、地元の様々な企業が参加する研究会のメンバーになって欲しいと依頼があり、GK京都から私が参加することになった。

この研究の主なメンバーは、私も含む地元のデザイナーもちろん、京都らしい産業として伝統工芸の職人（工芸家）、福祉機器を製造、販売されている人、企業で企画やマーケット或いは知財を扱う人、京都府のデザイン機関の担当者等の様々な人達である。

研究の活動スケジュールは、定例会議をベースに月1回。1年目はUDの講習会など行い学習。2年目は分析・企画に附属する試作モデルを検討。3年目では検討したその成果と各社のUD取組とあわせて、京都的な解釈でUDの5つの



成果物の小冊子と見開きのページ

Universal Design for Regional Confidence

Shinichi Ishikawa

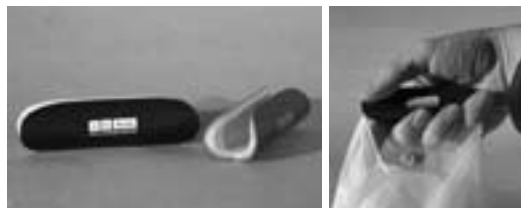
Five Trials in Kyoto

I represented GK in the Kyoto Universal Design Study Group organized by local corporations. Its members were designers, traditional artisans, representatives from local design organizations, manufacturers and retailers of instruments for disabled people, and planners and marketing personnel in local corporations. We met once a month, and studied universal design in the first year, examined model works for analysis and planning in the second year, and in the third year, we compiled a booklet containing the result of our study, universal design plans by member corporations, and five principles of universal

指針として小冊子にまとめるというものであった。ここでは、この小冊子の5つの指針の内容を、私なりに少しになるがご紹介したい。

1.最小限で最大の効果

京都の含めた日本の伝統工芸は、その品々をみるとUDに参考になることは沢山ある。和鉄は単純な形であるからこそ左右両方の人が使え。また、風呂敷は一枚の布でさまざまな用途に使え。このような考え方は、少し過剰とも思える現代の製品に何か活かすことはできないだろうか。デザイナーと伝統工芸の職人達との二人三脚の試作検討が始まる。



竹材のシンプルな形状を生かし試作した、買物袋で手が痛くならないグリップ（GK京都+中川竹材店）

2.改良から発明へ

デザインする我々にとって、製品そのもののあり方を0から検討することは多い。しかし、反対に福祉製品などを扱う人達は予算が限られていることもあり、目の前にある既製品等の改良で利用者に馴染むように考える。この見方を実践したデザインはないだろうか。メンバーの一人は、身近な洗濯バサミの改良を思いつき、自費で特許申請するまでの発明となる。

design, as follows.

1. Maximum Effect with Minimum Input

We can find hints for universal design from craft works in Japan. A pair of Japanese scissors with the simplest form can be handled both by right-handers and left-handers. A wrapping cloth (furoshiki) can be used not only for wrapping objects of various shapes but also for many other purposes. Can't we apply the concept of these craft works to contemporary product creation? Designers and traditional craftspeople are now working on samples.

2. Invention from Reforming the Existing Products

Designers usually start from nothing to design a product. However, those who are dealing with instruments



挟み込む部分のグリップ力を高め、逆に開けるバネの力の負担を軽減できた、女性に扱いやすい洗濯バサミ（資料提供及びデザイン：ゲーエフプランニング）

3.責任から信頼へ

京都の伝統的な町屋は美しい。この町屋という景観を、現代にあった安全性で維持するには、住む人の大変な労力と時間が割かれている。私達はこの町屋を維持する「町衆」といわれる住民の自治組織を見習った。デザインの過程に利用者也参加してもらい、製品のあり方を自ら自覚することで、過剰な製造責任から、製造者と利用者が責任を分担しあう信頼型のデザインへと変化させることはできないだろうか。



参加型で開発しているスポーツ遊具ユニビークル。京都市の中心市街のイベントで試乗会を行う

4.マイナスでなくプラスに見る。

研究会では人間工学についても学んだ。その中で興味深いデータは、高齢者と女性である。

for the physically disabled usually reform the readily available products to meet individual needs. We may be able to apply this practice to product design. One member designed a new clothespin by improving an existing one, and applied for a patent.

3. Mutual Confidence than Unilateral Responsibility

The townscapes of merchant houses in Kyoto are beautiful. Much energy and time are given to maintaining their beauty and safety for living. We used a community people's self-help house maintenance association as a model in our field study. We invited users to take part in the design process of products. It was an attempt to lead to the establishment of confidence in which both manufacturers and users share the responsibilities of

高齢者はほとんどの能力が衰えてくる反面、経験からくる総合的な判断力が上がっている。さらに女性は男性に比べ力は弱い、しかし逆に、指先は繊細で微妙な形状の判読に優れている。このように一見マイナスと思えることも、見方を変えればプラスが隠されていることに注目したい。



高齢者向け携帯電話の企業提案用モデル（GK京都）

5.個「ユニ」から全体「バーサル」へ

私がこの研究会に参加する前と、参加した後ではUDの言葉の意味の捉え方が大きく違っている。以前は、漠然とグローバルな視点でUDは生まれてくるものだと思っていた。しかし、この研究会の後では、地域的な視点でUDが生まれてくる可能性の方が高いのではと痛感している。これはこの研究会で得た私なりの大きな成果である。

今、各地域でUDをテーマにしたプロジェクトが進んでいる。確かに良いことだと思う。しかし、最近、何処も同じような手すりやスリプ等のデザインを見ると、少し安易な「平準化」も進んでいるように感じている。

私は地域のデザインに携わるものとして、この現象にじっくりと目を凝らし、これからも考えていきたいと思う。

（いしかわ しんいち：GK京都室長）

product creation.

4. Looking at Positive Points

We studied ergonomics. It was noted that as we age, our physical functions weaken, but that our ability to make general judgment rises because of our accumulated experiences. Women are weaker physically than men, but the tactile sense of their fingertips to tell delicate forms is better than men. Therefore, we should look at the positive points of users in designing.

5. From "Uni" to "Versal"

Now I feel that universal design for individual regions can be viable as I observe examples of easy standardization of slopes and handrails everywhere in the country. I will keep a watchful eye on this phenomenon.

メディアとしての「^{さわ}触れる地球」

～地球を感じることでできるメディアを作る～
今までにない地球表現と新たな可能性を予感させる試み

真貝 孝洋

現在、東京お台場の「日本科学未来館」と福岡市の「九州エネルギー館」に常設展示され、GKギャラリーなどで何度か皆さんにご紹介している「^{さわ}触れる地球」。離れて見ると単なる球体ディスプレイ装置であるが、その名の通り、近づいて触ることによって一つのメディアとしての可能性を見出すことができるものである。

日頃慣れ親しんでいる世界地図（メルカトル図法の世界地図？）では、スケール感や距離感といったものは、なかなか実感できないものである。球体のものを平面に展開したわけであるから、そもそも歪んだ形なのだ。我々の頭の中にイメージされる地球は、そんな歪んだ地球であって、真の姿とは程遠い。そこで、地球の形、スケール感や距離感といったものをもっと身近に感じることをできるものを作ろう、というのが「^{さわ}触れる地球」のコンセプトの1つである。

「^{さわ}触れる地球」の直径は1mで、実際の地球の



日本科学未来館、「^{さわ}触れる地球」ワークショップ 2002.6

"Tangible Earth" as an Information Terminal Takahiro Shinkai

"Tangible Earth" is now permanently exhibited at the National Museum of Science and Innovation in Tokyo and at the Kyushu Energy Museum in Fukuoka. "Tangible Earth" looks like a global object from a long distance, but in fact, it is a display terminal from which a user can retrieve data stored inside. The diameter of the globe is one-meter long, about one ten millionth of the size of the actual earth, or a 10,000-meter length is reduced to 1mm. The highest peak at of 9000 meters and the bottom of the deepest sea lying 10,000 meters below the sea surface are expressed as 1 millimeter above and below the sea level. The Pacific Ocean occupies about a

およそ1千万分の1の大きさである。例えば、「^{さわ}触れる地球」のスケールでは、旅客機の飛行高度約10000m（空気の層の厚さ）は約1mmになる。地球上で一番高い山が約9000m、一番深い海が約10000mであるから、「^{さわ}触れる地球」で見ると地球表面の凸凹はせいぜい±1mmでしかないのだ。また、地球と月の関係は約38m離れたところに浮かぶバスケットボール程度の大きさの球体ということになる。地球表面に着目してみると、太平洋の大きさがほぼ地球半球分であることが容易に見て取れる。他に、渡り鳥（コウノトリ）の移動経路を見てみると、シベリアから中国南部まで渡りを行っているが、その距離が日本列島丸々1個分ほどであることがすぐに理解できる。このように球体を球面で見ること、スケール感や距離感といったものを容易に感じられ、また約1千万分の1というサイズは、スケールの置き換えも楽に行えるようになる。

次に、地球表面に映し出される画像について見てみることにする。「^{さわ}触れる地球」は地球表面上で起こる様々な変化をアニメーションで見ることができる。海面温度の変化や植生の分布、先にも触れた動物の移動軌跡などを、地球の画像と重ね合わせて見ることができるのだ。海面水温と降水量や気温分布を重ね合わせてみると、エルニーニョ現象が発生した年に“大雨が降った”であるとか、“冷夏だった”などを同時に観察

half of the surface. A flight of white storks from Siberia to the southern part of China extends the length of the Japan archipelago. These data can be perceived with a sense of reality. The reduction rate is adequate to convert distances into other rates.

The global terminal can show various phenomena on the earth and water surfaces with animated pictures. Temperature changes on ocean surfaces, flora and fauna, and flight routes of migratory birds can be overlaid on the world map. When the data of sea surface temperatures, rain falls and a temperature map are overlaid on the map, the meteorological records can be shown, indicating greater amount of rain falls in the years when the El Nino phenomenon occurred and the lower air tem-

することができる。元来これらの情報はそれぞれの研究者たちがそれぞれの分野で研究してきたものであるが、それらを同じメディアで同時に重ね合わせてみることで、新たな発見を生む可能性も秘めていることは想像に難くない。

「触れる地球」のもう一つの特徴に触れてみよう。「触れる地球」には「虫眼鏡」と呼んでいるポインティングデバイスが用意されている。このデバイスは、地球の表面のある地点をポイントして、そこで起きている現象やそこに何かがあるのかをコンテンツ表示画面に映し出すための道具である。コウノトリの移動軌跡を表示させて、その営巣地や中継地をポイントすると、コウノトリの巣の様子やその周りの環境といったものをコンテンツ表示画面に表示させることができる。また地球のある地点の衛星画像を表示させたりすることも可能である。

では、「触れる地球」の今後の可能性を希望的観測を含めて考えてみることにする。現在の「触れる地球」に載せられているコンテンツは、地球に投影される画像も、コンテンツ表示画面に表示されるコンテンツも、残念ながらリアルタイムな情報ではない。それぞれの研究者の方々に提供していただいた画像や解説文を、コンテンツ製作の担当者が修正加工をして初めて、「触れる地球」上で表示することができる状態になるのである。ネットワーク技術の進歩した現代ならば、リアルタイムの情報を表示させることは技術的に可能ではある。極端に例えれば、人工衛星などから送られてくる情報を逐次加工して、ネットワークに接続された「触れる地球」上でリアルタイム表示することも不可能ではない。他にも、渡り鳥の観測地点にいる人に今の渡り鳥の様子をチャットやWebカメラ等でリア

peratures in the summers in these years. By overlaying these data that have been accumulated by researchers in respective specializations at once, a new discovery may be made.

Another feature of "Tangible Earth" is a magnifying lens Pointing Device that is installed with it. When a user points at a place on the globe, the data contained in the globe will be shown.

Both numerical data and images, however, are stored data. The data were provided by researchers, which were then processed by software engineers to be displayed on the terminal. Now that telecommunication technologies are well advanced, it is possible to show real-time information. For example, up-to-date infor-



日本科学未来館、「触れる地球」シンポジウム 2002.1

ルタイムにリポートしてもらうことなども、現在のネットワーク技術、情報処理技術を駆使すれば可能な話なのだ。また、少し違った観点から「触れる地球」の可能性を見てみると、空港のロビーなど世界中の人々が集まる場所に「触れる地球」を置いて、世界中の都市の様子などをリアルタイムで表示させるなどといった、世界時計の未来形のような展開も思い浮かぶ。また、「虫眼鏡」の発展形として、ポイントした場所やそこにあるものの音を聞くことができる「聴診器」といったデバイスも構想にあがっている。

いずれにせよ、現在はスタンドアローンの状態の「触れる地球」に、新たな道を作るとすれば、ネットワーク技術といったものが必要不可欠である。とはいえ、単純に線で繋がれば良いと言うわけではなく、情報の出し手、受け手、受けた情報を可視化するといったそれぞれの分野のそれぞれの人々の協力があつてこそ、ネットワーク技術が生かされて新たな可能性を見出すことができるのである。そうした可能性を予感させる新しいメディアとして「触れる地球」が広く認知されることを切に願うものである。

(しんかい たかひろ：GKテック室長)

※「触れる地球」オフィシャルサイト

<http://www.tangible-earth.com>

mation and images can be sent from watchers of migratory birds via information satellite.

Networking technologies are essential to link different Tangible Globes at different locations. In order to realize such an innovative idea, people who transmit and receive information and process data and images to be displayed must work in cooperation.

I sincerely hope that "Tangible Earth" will be known to more people and perceived as a new viable information medium.

栄久庵会長「Lucky Strike Designer Award」受賞

『口紅から機関車まで』の名著で有名なアメリカのデザイナー、レーモンド・ローウィ
その業績を記念する国際デザイナー賞を、日本人として初めて受賞

建築家イオ・ミン・ペイによってリニューアルされ、その中庭に、半透明の大きな天蓋が設けられたドイツ国立歴史博物館（ベルリン）は、1,100余名にのぼる海外からのゲストで埋め尽くされていた。2003年9月18日（水）、レイモンド・ローウィ国際財団（Raymond Loewy Foundation International）の主催する「ラッキー・ストライク・デザイナー・アワード」（Lucky Strike designer Award）の授賞式が開会された。マイケル・アルホフ、レーモンド・ローウィ国際財団理事長に始まり、ドイツの当該財団理事長、野口日本大使、そして栄久庵会長の永年の朋友であるデザイナーのディータ・ラム氏等の熱のこもったスピーチの後、レイモンド・ローウィ氏のご令嬢ローレンス女史のご登壇を得て、記念すべき受賞の瞬間を迎えた。そして、受賞者栄久庵会長の感謝スピーチが終了すると会場は総立ちとなり、拍手喝采の中、興奮は頂点に達した。多くの人々がデザインの歴史とその意義を反芻し、さらなる未来への想いを馳せた、興奮の一夜であった。

1991年より制定されたこの賞は、「デザインの仕事を通じ、日常生活を文化的または社会的に高めることに貢献したデザイナーの功績を称えるもの」をその主旨としている。レイモンド・ローウィ国際財団が、「ブリティッシュ・アメリカン・タバコ会社」の協賛を得て制定した、世

Kenji Ekuan became the first Japanese winner of the Lucky Strike Designer Award

The large semi-transparent baldachin built in the yard of the German National Museum of History in Berlin which was renovated by architect Ieoh Ming Pei was filled with more than 1,100 guests from overseas. The ceremony to award the Lucky Strike Designer Award was held by the Raymond Loewy Foundation International on September 18, 2003. Following warm speeches by Mr. Michael Erlhoff, the president of the Foundation, the president of its Foundation in Germany, Japanese Ambassador Noguchi to Germany, designer Dieter Rams who is a long-time friend of Kenji Ekuan, Ms. Laurence, a daughter of Raymond Loewy went up

界有数のデザイン・アワードであり、今年で13回目となる。栄久庵会長の受賞は、日本人としては初めての快挙であり、過去には、プロダクトデザイナーのブルーノ・サッコ、リチャード・サッパーや、ファッションデザイナーのダナ・キャラン、写真家のミハエル・バウハウス等が受賞している。

アメリカのタバコを代表し、現在に至るまでその秀逸なデザインで世界を圧倒する「ラッキー・ストライク」。そしてそのデザインを始めとし、その先見性と独創性で様々なデザインを世に残した偉大なるデザイナー。いわばアメリカ・デザインの父と称される、レイモンド・ローウィ氏と栄久庵会長との出会いは、戦後間もない広島米軍図書館で、彼の名著『口紅から機関車まで：Never leave things well enough alone』の原書を手にしたところに端を発する。「そのインダストリアルデザインの名著は、ご



感謝スピーチの様子は、大型ディスプレイで放映された

to the stage to present the award. When Ekuan finished his thank-you speech, the whole audience gave him a standing ovation. It was the evening of excitement.

The Lucky Strike Designer Award was instituted in 1991 to celebrate the great achievements that winning designers have contributed to the enhancement of the quality of people's daily life both culturally and socially. The Award is one of the more highly reputed design awards in the world that the Raymond Loewy Foundation instituted with support from the British American Tobacco Company. Ekuan was the first Japanese designer to receive this award. The past winners include product designer Bruno Sacco and Richard Sapper, fashion designer Donna Karan and photographer Michael Bauhaus.

く日常に存在する工業製品や大量生産品に、美が存在することを否が応でも訴えていた。その圧倒的な美しさは当時の若者達の目を奪い、その心をインダストリアルデザインに誘うこととなった。その想いと共に、GKグループは1952年に始動することとなった。(『GK物語』より)

国際財団理事長の受賞理由に曰く「GKデザインの50年間、それは栄久庵憲司氏によるデザインの50年間である。氏は様々な分野での実績を重ねると共に、現代日本のデザインのイメージ

を築き上げた。さらには国際的デザイン団体の指導的メンバーとして、今日もなお、その活動に邁進している」。いわば、栄久庵会長とGKグループのデザインの原点でもあった、レイモンド・ローウィ氏との運命的会い。それから半世紀を経て、ここに改めてこのようなかたちでレイモンド・ローウィ氏との再会を果たすことを、誰が予測できただろうか。連なる歴史によってこそ証明された、デザインに馳せた夢の連鎖と言えよう。



ドイツ国立美術博物館。隣接するバロック建築の建物に取り付けられたガラスルーフや螺旋階段が印象的である



受賞を喜ぶ栄久庵会長



ローウィの写真をバックに



懇親会場では GK の作品がパネルや実物によってディスプレイされた

Lucky Strike is a widely popular cigarette brand of the United States, and has overwhelmed the world with its excellent designs. With his foresightedness and creativity, Leowy left brilliant designs to the world, and is called the “father of design in the United States.” Ekuan’s encounter with Leowy’s work dates back to a day right after World War II when he took out the famous book “From Lipsticks to Locomotives: Never leave things well enough alone” from a shelf in the US Armed Forces library in Hiroshima. The products contained in this book on industrial design were advocating that any industrial products and mass-produced product could be beautifully designed. The beautiful products enchanted the hearts of the young, some of whom were led to the

world of industrial design. Ekuan was strongly inspired by this book, and he initiated GK Group in 1952. In his speech, the president of the Foundation said, “The fifty years of the GK Group represent the history of designs by Ekuan himself. He led postwar industrial design in Japan and established the foundation of modern design of Japan. He is also leading an international design organization.” Who could have predicted that he would win the award fifty years after his fateful encounter with Loewy? It is the continuum of his dreams for design that has been realized throughout his career.

GK Design International アトランタオフィス

GKがアメリカ西海岸ロスアンゼルスに礎を築いて36年。遂に東海岸に新たなオフィスが誕生した。しかし何故にアトランタだったのか？

菅原 義治

「GKDI/Atlanta」と聞いて「何故アトランタなのだろう？」こんな疑問をお持ちの方も多いのではないか。今回はそんな素朴な疑問について、そして我々の業務内容、更にはGKDI/Atlantaの今後についてお伝えしたい。

Atlanta。米国地域区分で「深南部（ディープサウス）」に分類されるジョージア州にある街。過去の南北戦争の激戦地も、今では「南部地域の首府」とうたわれ、人口も全米第9位の堂々たるメトロポリタンシティだ。ダウンタウンには近代的な高層ビルが建ち並び、片側5車線ある高速道路網は日々大量の物流と人々のコミューティングシステムを支えている。またアトランタ国際空港は東部の主要ハブ空港として発展を続け、現在世界一乗降客数の多い空港として知られている(8千万人/年)。

一方ビジネスの世界では、日本でも国民的飲料水の「コカコーラ」、湾岸戦争報道で一躍世界



アトランタダウンタウンにそびえる近代的なビル群

GK Design International Office in Atlanta Yoshiharu Sugawara

You may ask why GKDI has its office in Atlanta? Atlanta is the capital city of Georgia with the ninth largest population in the US. High-rise buildings are standing in the downtown district, and it has a 10-lane express highway network that supports massive commodity distribution and commuters. Atlanta International Airport is a hub airport in the east, and is known as having the largest number of passengers in the world with 80 million a year.

Atlanta is the home of such world famous businesses as Coca Cola, CNN and Holiday Inn. With the above information, people imagine that Atlanta is a concrete



アトランタの南、ニューナン市にあるヤマハ発動機工場

に名を馳せた24時間ニュースの「CNN」、世界的なホテルチェーンで有名な「ホリディイン」。彼等のホームタウンはここアトランタ。ここまで読むと、さぞやアトランタは街一面近代化の進んだ大都会なのだろう、と想像されるかもしれない。しかし実際のところ飛行機の窓から眺めるアトランタの街は、ダウンタウンのすぐ傍まで鬱蒼とした樹林に地表を覆われた、「森の中の街」という景色にかなり驚く。

成田空港から直行便で12時間の地にも日系企業の進出は目覚ましい。ソニーや日立、村田製作所など製造業を主に約350社が工場や事業所を構え、駐在員家族を中心に在留邦人数は約5千人を数えるそうだ。

さて前置きが長くなったが、GKがこのアトランタにオフィスを設立するきっかけは、長年のクライアントのヤマハ発動機がアトランタ近郊に生産工場を構えていることに端を発する。1986

jungle. In fact, the city is covered with woods until the border of the downtown district.

A 12-hour direct flight connects Atlanta and Narita in Japan. Taking advantage of this, 350 Japanese companies including major companies such as SONY, Hitachi and Murata Mfg. Co. Ltd., are investing in the city. There is a Japanese community of about 5,000 people, mostly employees of these companies sent from Japan. The reason for GK to locate its office in Atlanta was that Yamaha Motor Co. Ltd., our long-standing customer, built its production base in the outskirts of Atlanta. Opened in 1986, the factory here develops and manufactures leisure vehicles such as golf carts, water vehicles, all terrain vehicles (ATVs).



昨年6月、GKダイナミックス石山社長を迎えて。左が筆者、右がGKDI 松江社長

年に設立された同工場では、現在ゴルフカー、ウォータービークル、ATV（4輪バギー）などレジャービークルの生産、開発が行われている。

90年半ばからのアメリカ好景気、購買意欲の強いベビーブーマー層の支持をうけ、レジャービークルの販売は右肩上がりが続けてきた。中でもヤマハの商品は市場において売り上げ上位を常に維持するほど人気が高い。今後も市場安定が見込まれると踏んだヤマハ発動機は、為替変動の影響を受けにくいアトランタ工場の生産能力の拡大と、現地における商品開発能力の強化という方策をとる。そのためGKDIでは、1997年以降アトランタ工場生産される商品のデザイン開発に深く携わる運びとなる。

しかし広大なアメリカは、ロスアンゼルスとアトランタに3時間の「時差」を齎し、空路では4時間の「遠距離」にあるクライアントが求める迅速な対応は困難を極めた。加えて時間的、金銭的、そして体力的にもこの「時差と距離」から生まれるロス（無駄と無理）が想像以上に大きいことを我々は身をもって味わった。

そんな折、レジャービークル市場は成熟期を迎え、複雑にそして劇的に変化する需要に対して、スピードとデザインの質の向上が重要

Since the mid-1990s, demand for leisure vehicles has been rising supported by postwar baby boomers. As Yamaha's products had kept high ranking in the sales, the company determined to expand its R&D and manufacturing operations in Atlanta taking advantage of being uninfluenced by fluctuating exchange rates. Around that time GK had its office in Los Angeles. To visit our client in Atlanta, it took us four hours to fly from Los Angeles across the country with a 3-hour time difference, and we could not respond to their requests quickly. We also found that our loss caused by the time difference and distance was greater than we imagined. As the leisure vehicle market matured, consumer demand became increasingly widened and varied. Speedy re-

となってきた。この新たな課題を解決するため、よりきめ細かなデザインサービスの提供と、東海岸情報の収集拠点として、更にはクライアントからの要請もあり、2000年、今は亡き疋田明彦副社長が設立計画の草案に着手、一昨年の9月3日に正式な開所の運びとなった。

現在はGK京都からの駐在者(山本卓生室員)と私の2名体制。通常業務はロスアンゼルスオフィスとの共同作業が主だが、GK京都、GKダイナミックスとのコラボレーションによって、アトランタ工場生産される全ての商品のデザイン業務を手掛けている。現状は日本人2名のみのおフィスだが、今後は現地人デザイナーの加入も検討しながら、より現地に密着したデザインオフィスとして発展していければと思う。
(すがわら よしはる：GKデザインインターナショナルディレクター)



sponses and higher quality design were required. In order to meet these needs, and provide more elaborate design service, GK decided to locate a new office in Atlanta in 2000. It was also envisaged to serve as the base to collect information on the east coast. The late president Hikita drew the basic plan, and the office was opened on 2002. The office has Yamamoto from GK Kyoto and myself from Japan. We are responsible for all design works for all the Yamaha Motor products manufactured in Atlanta, and we usually work jointly with the Los Angeles Office, and occasionally in collaboration with GK Kyoto and GK Dynamics. In the future, we will consider the possibility of having local designers and work as a design office with closer relations with the locality.

新社名・新オフィス、そして新たな地平へ

2003年8月より、GK Design Europe bv (旧・Global Design bv) という新しい社名のもと、新オフィスに移転したGKデザイングループ欧州拠点、その歴史と未来を展望する

柴田 巖朗

なぜオランダだったのか

GKデザイングループが欧州拠点(旧・グローバルデザイン)をアムステルダムに設立したのは1986年のこと。名だたるデザイン都市がひしめく欧州のなかで、なぜアムステルダムだったのか? 様々な理由をあげることができるが、決め手となったのは、栄久庵会長が国際的なデザイン活動を通じて知りあったオランダ人デザイナーたちの魅力的な人柄だったと聞く。確かに自らの手で国土を造成=デザインするとともに、貿易国家として一時代を築いてきたオランダには、一筋縄ではいかない独特な魅力がある。

激動の90年代を越えて

当初グローバルデザインはオランダのデザイン事務所との合弁企業として設立されたが、1993年からはGKデザイングループの100%出資となった。バブル経済崩壊直後の日本とは対照的に、



7月15日に行ったオープニングパーティ。オフィススペースは二層吹き抜け、ワークショップ、プレゼンテーションルームを備える

New Company Name, New Office and New Horizons

Itsuro Shibata

Why the Netherlands?

It was in 1986 that the GK Design Group established its European base (Global Design) in Amsterdam. Why did we choose Amsterdam among the many design centers in Europe? I learned later that Ekuan was enchanted with the people with whom he had made friends through his activities in international arenas. The Netherlands who developed their land based on their design and the country that once flourished as a trading giant provide us with an inspiring atmosphere.

The decade of the 1990s with Rapid Changes



01年ミラノショーで発表されたBT1100。欧州のモーターサイクリストたちに熱狂的に支持された

欧州統合にむけて各国が経済改革を断行するなか、90年代のEU市場は活況を呈していった。こうした追い風を受け、欧州市場での売上を伸ばしていった日系企業の成功に沿うかたちで、グローバルデザインも地歩を固めることができた。

欧州主導のデザイン開発

特に緊密なおつき合いを続けさせていただいているのがヤマハ発動機だ。GKデザイングループは過去50年に渡り、同社のモーターサイクルデザインに携わってきたが、欧州市場の重要性が増すにつれ、欧州主導のデザイン開発の必要性も高まった。2001年ミラノショーでデビューを飾ったBT1100(ブルドッグ)は、欧州ヤマハ発動機の商品企画とグローバルデザインが一体となって創りあげた欧州市場向けモデルだ。こうした欧州主導による企画・デザインの製品は、現地化/市場対応強化を進める日系企

Global Design was initially founded as a joint venture with a local design firm. Since 1992, GK obtained 100 percent of equity. In contrast to the Japanese market following the bubble economy, the EC market was vigorous as each country was restructuring its economy in preparation for the establishment of the European Union. The vigor pushed the sales of Japanese companies in Europe. With their successes, Global Design established its sure footing in Europe.

Europe-led Design Development

Yamaha Motor Co. Ltd. is our major and long-time customer also in Europe. Over the past 50 years, the GK Design Group has been engaged in designing Yamaha motorcycles. As the importance of the European market

業全般において、今後ますます増加することが予想される。

またドイツの屋外広告企業Wall AGのように、オランダでのデザイン展に出展したGKデザイングループの作風に興味を持ち、コンタクトしてきた欧州クライアントもある。日本・欧州の区別なく、純粹にデザインの質が評価されたわけだ。GK設計とグローバルデザインが手がけた同社のバスシェルターは、現在ベルリン市内で増殖中である。

そして未来へ

オランダ人ディレクター1名の常駐から始まった陣容も2003年には9名体制となり、メンバーの多国籍化が進んだ。また業務領域もプロダクトデザインはもとより、各種リサーチから欧州人の外部デザイナーを起用したデザインマネジメントまで拡大してきた。

そこで新たな地平を目指すべく、2003年7月末に、設備の充実したオフィスに移転するとともに、GKデザイングループの欧州拠点であることを明確にする社名変更を実施した。

グローバル化(Global×Local)が進む昨今、市場に密着したデザイン事務所というだけでは通用しない。設立のきっかけにもあったように、



オフィス外観。オランダならではの大胆な建築。広告代理店、建築事務所、映画配給会社等、“クリエイティブ”な職種がテナントとして入居している

gained strength, the need for design development in Europe rose. The product planners of Yamaha Motor Europe NV and Global Design jointly developed BT1100 (Bulldog) as a model targeted at the European market. It made its debut at the Milan Show in 2001. Product development in Europe will increase in Japanese companies as they are in the process of localization of their business operations.

The design style of GK Design Group demonstrated at design shows in the Netherlands drew the interest of potential clients in Europe, including Wall AG, a design firm of outdoor advertisement signs in Germany, who contacted us to work for them. The Bus Shelters developed by GK Sekkei and Global Design are now propa-

結局のところ、個人・組織ともにどれだけオリジナルな魅力を発信できるかが成功の鍵になってきた。新たなスタートを切ったGKデザインヨーロッパも、クライアントと国際社会にとって、常に魅力的な存在でありたいと考えている。(しばた いつろう：GKデザインヨーロッパプロジェクトマネージャ)



GK Design Europe の新しいロゴタイプ

GK Design Europe bv
Pilotenstraat 39 1059 CH Amsterdam, The Netherlands,
Tel: +31.20.625.0091
E-mail: info@gkeurope.nl

gating in Berlin.

Future Perspectives

Global Design had only one Dutch director at the beginning. It developed to have 9 multinational staff members in 2003. The range of services was also expanded to include product design, researches, and design management employing European designers from outside.

With the intention of seeking wider horizons, we moved our office in July 2003, and at the same time, we changed the name to make GK clearly identified. The success of this office relies on how much unique enchantment we can put forward. We hope that GK Design Europe will remain a design office that interests our clients and the world.

「GKのかたち論」——その視点とことば——

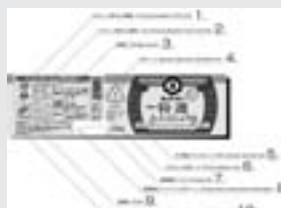
GKが考える「かたち」とは何か。GKらしい「かたち」とは何か。「かたち」に求められる新たな指標とは。時代も組織も絶え間なく変化し、その中で共に変化してきた「かたち」は、GK独自の視点、技術、方法論を世に問い続けてきた。「かたち」をつくることを職能とし、評価される以上、自らが生み出す「かたち」について常に自問自答し、確実に進化していかなければならない。自ら生み出した「かたち」を自らの視点とことばで論じ、自ら問い直す機会としたい。近未来に向けて、GKの「かたち論」を形づくることを期待して。

(平成 15 年度第 1 回 GK Gallery より／平成 15 年 10 月 3 日開催)



空飛ぶシートへの想い
—シェルフラットシートに
おけるかたちへのアプローチ

GK インダストリアルデ
ザイン



パッケージ裏面表記の
デザイン論
—しょうゆラベルからの考察

GK グラフィックス



中国家電研究
中国市場とデザイン
～傾向と対策

青島海高設計製造有限
公司



ことばの
クリエイティビティ

GK Design



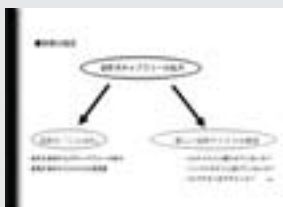
サイン・ストリートファ
ニチュアのかたち

GK 設計



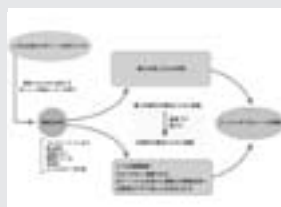
インターフェイスに見る
“かたち”

GK テック



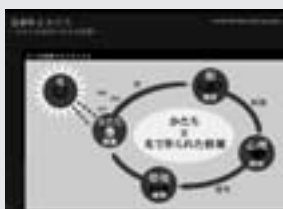
京都造形茶話会より
— GK 京都の取り組み

GK 京都



カタチの成り立ちと
暗黙知

GK デザイン機構
企画調査部



ひかりとかたち
—ひかりが造形に与える影響

GK ダイナミックス



かたちにおける
アキハバラ論

デザイン総研広島

Theory of Forms – Perspectives and Language

What does GK consider to be “ form ”? What is “ GK form ”? What are new guideposts of forms? Forms have changed in response to the changes in society and the organization. In the process, we asked ourselves to pursue the perspectives, techniques and methodology that are special to the GK Design Group. As designers who create “ forms ” and for which their competence is evaluated, we must always self-evaluate the forms we have made and we must make steady progress. GK Gallery will be an opportunity for each of us to discuss the forms we have created from our own standpoint and with one’s own words with an expectation that we will formulate GK theory on forms. (1st Gallery, October 3, 2003)

Photos above (left-right, top-to-bottom)

- 1 Thought on a Flying Seat: Approach to a form in Shell Flat Seat for an airplane
- 2 Research on Chinese consumer electronics – Chinese Market and Design – Trends and Measures
- 3 Forms of Sign and Street Furniture
- 4 Study at Kyoto Gathering on Figurative Art
- 5 Light and Forms – Effects of light on objects
- 6 Design on the back of packages – Soy sauce label
- 7 Linguistic Creativity
- 8 Forms as seen in interface
- 9 Constitution of a form and tacit understanding
- 10 Akihabara (electric appliances district in Tokyo) theory in the creation of forms

「道具学研究」 事始め——GK グループの研究活動——

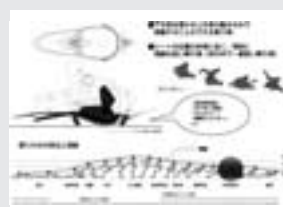
GK グループ創造思想の根幹を為す「道具学」。その絶えざる研究活動とそこから展開されるデザインの実践は、「インダストリアルデザインを通じて、道具世界の構築を目指す」と決意した GK グループ結成当初からの大いなる目標だった。21 世紀を迎え、道具とその環境も、デザインを取り巻く状況も変容を遂げている。時代と共に、道具の意味や役割も変貌を遂げ、道具自身も新陳代謝をくり返し、新たな展開を迎えつつある。今、改めて、「道具学の視点」に立って、ものづくりの地平を、デザインの宇宙を俯瞰してみたい。

(平成 15 年度第 2 回 GK Gallery より／平成 16 年 3 月 5 日開催)



生活機器道具学
—インテリア金物の
トータルデザイン研究

GK インダストリアルデザイン



ユニビークル
—道具誕生の瞬間

GK 京都



都市の装置
—今、ストリートファニチュア
に何が出来るのか

GK デザイン



地域の移動具論
—日本車の
オリジナルタイポロジー

デザイン 総研広島



容器と道具のはざままで
—テーブル回りの容器たち研究

GK グラフィックス



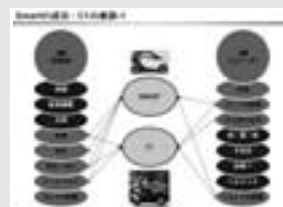
アメリカのレジャー文化
とレジャービークル

GK Design



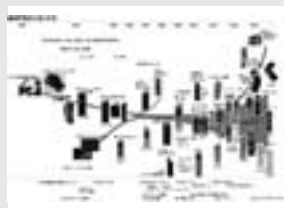
M/C の魅力
パーソナライゼーション考

GK ダイナミックス



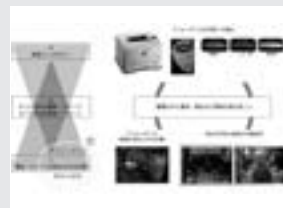
欧州コミュータ研究

GK Design Europe



新電脳道具学構築に
向けた研究計画

GK テック



魅力のアウトプットの
ためのプロセス論

GK デザイン機構
企画調査部

GK ギャラリー：GK メンバーが一同に会し、日頃の活動・最新作品の紹介などを通じ、相互交流を図るとともに、その創造視点や、設計方法論を披露し合うことで、各社・各メンバーの自己研鑽を促す、GK グループの伝統的歳時記の一つである。

GK Gallery: A general gathering of all GK members to exchange information on their activities and products. Its aim is to encourage members to further enhance their thinking ability and polish their skills through discussion on their creative perspectives and design methodologies. It is one of the traditional GK calendar activities.

Commencement of Dougu Studies – Research and Study by the GK Group

To establish Dougu Studies that constitute the stem of creative thinking of the GK Group: at the outset of establishing the GK Design Group, we were determined to “ build the world of dougu through strenuous research efforts and industrial design activities. Now that we are living in the 21st century dougu tools and the environment surrounding dougu and design have undergone changes. The significance and roles of “ dougu ” have changed. We need to look upon the horizon of creating objects afresh.

(2nd Gallery, March 5, 2004)

Photos above (left-right, top-to-bottom)

- 1 “ Dougu ” Studies on Utensils – Total design studies on interior metallic tools
- 2 What functions does street furniture can fulfill now?
- 3 Between vessels and tools – Studies on vessels around the table
- 4 Charms of Motorcycles – Personalization
- 5 Research to establish New Computerized “ Dougu ”
- 6 Uni Vehicle – Moment of the birth of “ Dougu ”
- 7 Theory of Community Transportation Means - Original Typology of Japanese Automobiles
- 8 US Leisure Culture and Leisure Vehicles
- 9 Studies on Commuters in Europe
- 10 Theory for Expression of Charm

栄久庵会長「フィンランド獅子勲章」受章

日本とフィンランドの文化交流のために尽力する
デザイン交流を通じた両国のデザイナーの架け橋になるために

この度栄久庵憲司GKデザイングループ代表がフィンランド共和国より、フィンランド獅子勲章コマンドー章 (The Insignia of Commander in the Order of the Lion of Finland)を受章した。

これは、栄久庵代表の永年にわたる、デザインを通じての日本とフィンランド両国間の交流活動をはじめ、最近では自ら会長を務める「日本フィンランドデザイン協会(日本)」の設立とその活動の業績、さらには、「Feel Finland」キャンペーンへの参加活動等を通じての、「フィンランド文化の世界化」への貢献が高く評価されたものである。

2003年秋には、両国の日本フィンランドデザイン協会の協力により、「静けさのデザイン」展が東京で開催され、フィンランドにおいて第一線で活躍するデザイナーの作品が日本に紹介された。



左よりエーロ・サロヴァーラフィンランド大使夫妻、栄久庵会長、ユルヨ・ソタマー日本フィンランドデザイン協会(フィンランド)会長

Kenji Ekuan was honored with the Order of the Lion

Kenji Ekuan, chairman of the GK Design Group, received the Insignia of Commander in the Order of the Lion of Finland in honor of his contribution to the promotion of friendly relations between the two countries. Ekuan has long been involved in designer exchange between Finland and Japan. He established the Japan-Finland Design Association a few years ago and acts as its president on the Japanese side. In addition, he took part in the "Feel Finland" campaign in Japan and helped the "globalization of Finnish culture."

Ekuan came into contact with Finland in the early 1950s. During his first visit to the country that was just starting



授与されたフィンランド獅子勲章コマンドー章

栄久庵会長とフィンランドの関係は、1950年代初期に遡る。国際化が始まったばかりのフィンランドを初めて訪問した栄久庵会長は、その自然とデザインに魅了され、その後、何度も両国を往復するようになった。栄久庵会長はまた、1996年のフィンランドデザインセンター(東京)設立にも尽力した。

授章式は、去る1月23日(金)の午後7時より在日フィンランド大使館にて行われ、エーロ・サロヴァーラ大使より同勲章が栄久庵会長に授与された。

授章式に列席した日本フィンランドデザイン協会(フィンランド)会長のユルヨ・ソタマー氏は、「栄久庵氏を通して、フィンランドのデザインやデザイナーが日本をはじめ世界で知られるようになった。栄久庵氏に励まされて、わが国のデザイナーたちは海外に進出するようになったのである。」と、祝辞を述べた。

to take steps toward internationalization, he was greatly charmed by its nature and designs, and has continued to make frequent visits there. He helped with the establishment of the Finland Design Center in Tokyo in 1996.

The awarding ceremony was held at the Finnish Embassy to Japan in the evening of January 23, 2004. Ambassador Eero Salovaara presented the order on behalf of the Finnish nation. Mr. Yrjö Sotamaa, president of the Finland-Japan Design Association, visited Tokyo on this occasion, and gave a speech in which he said, "Through Ekuan-san, Finnish designs and designers were introduced to Japan and other countries. With his encouragement, our designers have explored paths for advancing their activities outside Finland."

デザイン真善美

11. 「己を知る」ことの意味

—コア・コンピタンスと集団創造

栄久庵 憲司

コア・コンピタンスとは有効な考え方である。元来、コンピタンス(Competance)とは「能力、適性、資産、機能」などを示す言葉であり、「コア・コンピタンス」とは、その人や組織や活動の核たるアイデンティティを示す用語として用いられている。

一方、孫子の言葉に「己を知る」があるが、コア・コンピタンスはまさにこのことに通じる。そしてその「己を知る」ということはその時そのままの自己でなく、自己の可能性を求めていることでもある。自己の足らざるを知り、自己の足りたるを知ることは、目標を立てやすく事業内容もクリアになる。

コア・コンピタンスはどこか張りつめたダイナミズムをイメージさせるのがよい。天命に生き、そのもとでプロジェクトを求め、ダイナミズムをもった開発展開を求める。肝要なことは、集団創造における各コア・コンピタンスがダイナミックスピリッツを生ずるかどうかだ。プロジェクトの魅

力化が大きな焦点になるだろう。私は、「人の道」「地の道」「天の道」でプロジェクトを包みこめば、必ず何れかの突破口があると信じている。例えば造形の面白みを捉えたとき、多くの世人はかたちの意義も分からない。そんな時、「人の道」の人というものは本性として心震わすかたちを求めているものだ考えるとよい。美しいかたち、面白いかたちは人の精神を新鮮にする力を有していることを忘れてはならない。あとは「地の道」そして「天の道」に叶えばよい。

GKグループ各社のコア・コンピタンスのダイナミズムは他のGKグループ各社と相乗作用をおこし、GK全体が成長進化する。そこに成長する創造的有機体の源がある。ここで肝心なことは何かを求める眼をもつことだ。これが能力を連鎖させるオリジナルになり、この気風を常に醸成させなければならない。

GKデザイングループ代表

Truth, Goodness and Beauty of Design

Meaning of Knowing Oneself

Kenji Ekuan

Core Competence is a useful concept. The term “competence” means ability, aptitude, asset, function, and so on. “Core Competence” is used to express the core capability for activities of a person or an organization.

An ancient Chinese philosopher Sun Tzu said, “One should know about oneself.” This can be applied to “core competence.” When he said “know oneself,” he not only meant to know oneself of that time, but also one’s potentiality. Knowing what is lacking and what is sufficient in ourselves would help us set goals and plan a project effectively.

The sound of “core competence” gives an impression of tense dynamism, which I find agreeable. As we live up to our decree, seek projects and dynamic development and implementation of projects in

accordance with the decree, an essential point is whether each person’s core competence generates dynamics in the process of collective creation. The key for this will be to make a project exciting to all. I believe we can find a solution to breakthrough any challenges if we envelope a project with the “dou” of Human, Earth and Heaven. When we are faced with a question of form, just consider that what people instinctively seek are some forms that excite or thrill them. We should not forget that beautiful and intriguing forms have the power to refresh people’s mind. Once you satisfy the “dou” of human, then, you should satisfy those of Earth and Heaven. The dynamism of the core competence of affiliates of the GK Design Group will incite synergy among member companies and drive the entire group to advance forward. Here lies the source of GK’s growth and creativity. What is essential here is that each person should have an eye to seek something.

編集後記

(平成15年度総集編 編集を終えて)

GK創立50周年を無事終了し、次の第一歩を踏み出した平成15年度は、悲しい出来事やうれしい出来事が入り交じり、GKの新たな歴史に刻まれた年度でもありました。とりわけ、西澤健社長の突然の逝去は、想い返すに心痛み、悔まれてなお余りあるものがあります。心よりご冥福をお祈りいたします。一方で、栄久庵会長のレイモンド・ローウィ財団よりのラッキーストライク・デザイナー・アワードの受章やGKグループ各社・各メンバーの奮闘努力の結晶は、深い悲しみの中にあつて、GKグループの地球時代における新たな可能性を鼓舞する、最大の力添えでありました。今後とも、GK Reportへのご助言を含め、大いなるご支援ご鞭撻を戴きたく、お願いする次第です。

(藤本 青春)

Editors' Notes

We started the 2003 fiscal year, after celebrating the 50th year anniversary. It was an eventful year with both sad and encouraging events. The saddest thing was the unexpected death of Mr. Takeshi Nishizawa. Every time I think of him, I feel sadness and loss. On the bright side, we were glad that chairman Ekuon was honored with the Lucky Strike Designer Award by the R. L. Foundation. The crystallizations of struggles and challenges of all GK member companies and their staff members presented encouraging signs of the strength of GK Group. We welcome suggestions from our readers.

(Kiyoharu Fujimoto)

GKグループ内外にわたる、様々な方々のご助言とご協力を得て、本号より念願の「英文抄訳併記の編集」となりました。より多くの読者の方々に理解していただき、GK Reportがさらに広い世界に提言・提案出来ることを、大いに期待しております。創刊以来、数々の試行錯誤を経て、ともあれここまで続けられたことを、まずは、ご関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。

とはいえ、まだまだ至らない点も多く、今後も、みなさまのご意見を頂戴しながら、改善に努めていきたいと思っております。お気づきの点などございましたら、遠慮なくご連絡下さい。より一層、充実した内容に向けて、是非とも忌憚のないご意見ご助言を頂けまう、よろしく願いいたします。

(松本 匡史)

With the support and advice given by people within and outside of the GK Group, we begin the longed-for publication of the GK Report with an English summary. With this addition, we hope that the Report will reach non-Japanese speaking readers, and that our proposals and advocacy will be heard by a greater audience. Since its inception, we have continued through trial and error this publication. I thank interested people for their support and cooperation. We will be glad to listen to your candid opinions to make the contents more satisfactory.

(Tadashi Matsumoto)

GK Design Group

株式会社GKデザイン機構
株式会社GKインダストリアルデザイン
株式会社GK設計
株式会社GKグラフィックス
株式会社GKダイナミックス
株式会社GKテック
株式会社GK京都
株式会社デザイン総研広島
GK Design International Inc. (Los Angeles/Atlanta)
GK Design Europe bv (Amsterdam)
青島海高設計製造有限公司

GK Design Group

GK Design Group Inc.
GK Industrial Design Inc.
GK Sekkei Inc.
GK Graphics
GK Dynamics Inc.
GK Tech Inc.
GK Kyoto Inc.
Design Soken Hiroshima Inc.
GK Design International Inc. (Los Angeles/Atlanta)
GK Design Europe bv (Amsterdam)
Qingdao HaiGao Design & Mfg. Co., Ltd.

GK Report No.11

2004年05月発行
発行人/小木原 光治
編集顧問/金子 修也
編集長/藤本 青春
編集部/松本 匡史
翻訳/林 千根
発行所/株式会社GKデザイン機構
〒171-0033 東京都豊島区高田3-30-14 山愛ビル
Tel: 03-3983-4131 Fax: 03-3985-7780
URL: <http://www.gk-design.co.jp/>
印刷所/株式会社高山

GK Report No.11

Issued: May 2004
Publisher: Mitsuharu Kokihara
Executive Editor: Shuya Kaneko
Chief Editor: Kiyoharu Fujimoto
Editor: Tadashi Matsumoto
Translator: Chine Hayashi
Published by GK Design Group Inc.
3-30-14, Takada, Toshima-ku, Tokyo 171-0033 Japan
Phone: +81-3-3983-4131 Fax: +81-3-3985-7780
URL: <http://www.gk-design.co.jp/>
Printed by Takayama Inc.